

おかげさまで20年！

平成8年8月 「消費税が変わります。対策は十分ですか?…」というタイトルでスタートしました「やまと得々ミニ情報」も、おかげさまで20年の節目(240号)を迎えることができました。この間、元気になる情報はないかと探しながら、続けてまいりましたが、少しは参考になりましたでしょうか? これからも身近な情報を集めてお知らせしてまいります。ご活用いただければ幸いです。

4月に発生した熊本震災はまだ収束していませんが、木造仮設住宅なども建設され、少しずつ復興の兆しが見えてきました。熊本県の住宅メカは、これまで復旧対策に追われていましたが、5月後半から新築の契約が伸びているそうです。特に丈夫な基礎の上に耐震性能の高い住宅が求められているようです。

弊社では4月末に「N値計算ソフト」を導入し、地震による柱の引抜けを防止する柱頭柱脚金物の選定が可能となりました。また、「重心」と「剛心」の偏心率で壁の偏りや必要壁量と存在壁量を確認し、住宅の破損・倒壊を防ぎます。是非御利用ください。

2030年度の住宅着工戸数は54万戸！

野村総研が6月発表した新設住宅着工戸数の予測です。オリンピックの行われる20年は79万戸、25年は67万戸と漸減するようです。これは傾向的にみたものであり、今回再延期された消費税による駆け込み需要やその反動、景気の状態等による変化はあっても、減少する事は間違いないそうです。更に大工技能者の不足が心配されます。そうすると54万戸も難しいとしています。その為には一層の合理化工法が求められるという事です。

一方、住宅の平均築年数は年々伸びており、13年には平均22年だったが、30年には29年程になるとして、空き家をリフォームした既存住宅の流通も増えると予測しています。

【情報】

震災復旧仮設住宅はベタ基礎

口永良部火山爆発や東北大震災の時は仮設住宅建設が始まると、丸太杭の需要が増え、各地から集められました。然し、今回の熊本地震では丸太杭の需要は聞かれなかった。余震があるので仮設住宅も建てられないのだろうと思っていたら、仮設住宅の入居が始まった。丸太杭では地震に対し不安があるため、土間に直接鉄筋コンクリート基礎にしたとのこと。

【定休日】

7月は3, 9, 10, 16, 17, 23, 24, 31日となります

8月は6, 7, 13, 14, 15, 16, 21, 27, 28日となります

宜しく申し上げます。



(熊本県木造仮設住宅とコンクリート基礎)